

ホケンダイつきいちゼミ(2025年12月号)



Q1.研究テーマを教えてください。



カンボジア地域コミュニティにおける高齢者の食事摂取と身体状態に関する研究しています。



Q2.お名前と今の仕事の内容を教えてください。



健康科学研究科学博士前期1年の青森県立保健大学院生On Sothida (オン・ソティダ)です。介護福祉士の資格を活かして、現在は、介護のアルバイトしています。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年12月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



アジア地域の栄養、食文化、健康課題を研究する「アジアの栄養・食文化研究室」に所属しています。指導教員は山本 茂 先生です。



Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



私は、カンボジアの高齢者がどのような身体状況や生活状況にあるのかを正確に把握したいと思ったことが、研究を始めようと思った理由です。

現在の状況や潜在的な問題点を明らかにすることで、課題を発見し、それを解決・改善するための具体的な支援策につなげたいと考えています。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年12月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



カンボジアの高齢者を対象に、ADL、BMI、握力、口腔状態、そして24時間思い出し法による食事調査を行い、身体機能と栄養状態を明らかにする研究です。健康課題を客観的に把握し、今後の支援や改善につなげることを目的としています。



Q6.どんな成果が得られていますか。



現在は準備段階ですが、これまでに文献レビューや調査票の作成、評価方法の検討を進めており、カンボジアの高齢者に関する基礎的な課題や、栄養・身体機能に関する研究の不足を明確にできています。これにより、本調査で何を明らかにすべきかが具体的にになってきています。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年12月号)



Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



この研究の結果は、カンボジアの高齢者とそのご家族に活用していただきたいと考えています。高齢者がどのような栄養が不足するのかを知ってもらうことで、家庭内での食事内容が改善され、高齢者の健康の向上に貢献したいと思っております。



Q8.皆さんにメッセージをお願いします。



カンボジアには老人ホームがほとんどなく、家族による介護が中心です。そのため、高齢者の健康や栄養状態が十分に注目されていない現状があります。私は、この研究を通してカンボジアの高齢者の健康を少しでも向上させたいと考えています。もし皆さまにもこのテーマに興味を持っていただけたら、とても嬉しく思います。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年12月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



対人ケアマネジメント領域 アジアの栄養・栄養食文化研究室
大学院博士前期課程1年 On Sothida
メールアドレス: 2581003@ms.auhw.ac.jp



Onさん、ありがとうございました。
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！